

授業概要

子どもの身体を理解するためには、自身の身体を理解することが必要である。学生自身が実際に身体を通して表現する過程を体験することで、表現者としての自分自身を成長させ、同時に保育者として子どもへの理解をも深められるよう指導する。

また、日常保育と発表会などの行事とを関連付けて指導する。

授業計画

第1回	オリエンテーション、子どもの生活と身体表現	＜講義＞
第2回	基本ステップ	
第3回	基本ステップ	ステップの組合せと空間構成
第4回	基本ステップ	創作
第5回	基本ステップ	作品発表
第6回	表現あそび	模倣、オノマトペ
第7回	表現あそび	絵本、ことば
第8回	表現あそび	道具
第9回	実技テスト	
第10回	舞台発表会の演目を創作する	導入
第11回	舞台発表会の演目を創作する	
第12回	舞台発表会の演目を創作する	
第13回	舞台発表会の演目を創作する	
第14回	舞台発表会の演目を創作する	
第15回	発表会	
第16回	発表会の振り返り	

到達目標

- ・ 幼児期の特性と表現活動の関係について理解し、生活の中にある様々な表現の契機を捉える力を獲得する。
- ・ 子どもの表現を受け留め、共有できる感性を高める。
- ・ 子どもの豊かな身体表現を導くための知識や技術を習得し、工夫と適切な援助・指導ができるようになる。
- ・ 学生自身も表現者として「感じて・考えて・行動する」力を養う。
- ・ 身体表現活動を通して他者とつながり、共同での創造的活動を行う理論と実践力を身につける。

履修上の注意

- ・ 毎時、プリントを提出することで出席とする。
- ・ 遅刻は、やむを得ない場合 20 分以内で認めることがある。それ以降は欠席とする。遅刻は 3 回で欠席 1 回と同様の扱いをする。
- ・ 講義の指定がある時以外は実技である。運動をするのに望ましい服装・身だしなみで受講すること。室内用の運動靴を履くこと。
- ・ 講義、実技を問わず筆記用具を持参すること。また、B5 ノートを用意すること。適宜、ノート提出を行う。

予習復習

予習：シラバスを確認し、自身の生活や子どもの生活を観察しイメージを膨らます。

復習：プリントを提出し、ノートにまとめる。

評価方法

平常点（授業態度、提出プリントの内容等）、実技テスト、創作作品を総合的に評価する。

テキスト

毎時プリントを配布する。

【参考文献】

平田智久・小林紀子・砂上史子編『最新保育講座 11 保育内容「表現」』、ミネルヴァ書房、2012 年